信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	Global Mindset & Practical Approach	
学部・研究科名	グローバル教育推進センター	
実施期間	2016年8月6日～8月10日	
研修先(国・都市・施設名)	タイ・バンコク、ローカル企業、日系メーカーおよび世界遺産	
参加者数 ： 12名		知の森基金からの支援者 ： 11名
プログラム概要	座学講義の中で深化させたグローバルマインドおよび国際教養といった知見をベースに世界の第一線でリーダーシップを発揮、活躍する日本人駐在員へのインタビュー調査を通じて、国際通用性の高い実践的グローバル・リーダーシップの本質を理解、体感することを目的とするプログラムである。特に、国内の座学講義では補完しきれない実地教育の必要性に着目し、現場の臨場感に触れ、日々難しい決断に苦悩しながらも屈強に仕事と向合う現役駐在員から直接、海外で働くことの醍醐味や苦労についてインタビューし、質の高い学びと気づきを学生に提供し、残りの学生生活の質向上およびグローバルに活躍できる普遍性の高いケイパビリティの概念化を試みる。	

実施状況・成果

本研修では、「国際通用性の高いグローバル人材に必要な資質」および「グローバル・リーダーに不可欠な要素の探究」というテーマを掲げ、タイで活躍する現役駐在員およびタイ企業で現地採用され活躍するビジネスマンに対しインタビューを行った。世界の最前線で活躍するビジネスマンから直接、海外で働くことの醍醐味や失敗談、あるいは苦労話など、普段決して聞くことのできない貴重且つ大変示唆に富むお話を聞くことができた点で、学生らにとって大いなる刺激となった。中でも、「英語力」と「仕事上のリーダーシップ」には必ずしも相関性がないことや、「現地社員とコミュニケーションしようとする前向きなマインド」に加え、「その国の文化への理解と尊重を如何に行動で示すことができるか」といった資質の重要性が指摘された。

GEC初の試みとなる座学と実地研修を融合させた本講義で得られた知見は、想定を超えるほどの成長をそれぞれの学生にもたらした。例えば、今回命題に掲げた「グローバル・リーダーに必要な資質」については、「ビジネス実務能力」、「語学力」、「コミュニケーション能力」、「柔軟性」といった変数が関係することをあらかじめ想定しインタビューに臨んだ。実際、実務家からも同様の資質の重要性が指摘されたものの、それらの「聞きなれた感」のあるフレーズが実務家の経験談に沿って伝えられたことで現場の臨場感に付随しながら説得力が増幅され、学生たちの心にストレート且つ具体的に事象の「概念化」、「見える化」が促進されるなど、完全に「腹に落ちた」状態にまで理解を昇華させた。

本研修を通じて自分自身、アクティブラーニングの重要性について再認識すると共に、学生にとっても「ありたい自分の姿」や「将来への方向性」といった今後の人生設計に不可欠な何らかの「気付き」を提供できた点で「グローバリゼーションへの覚醒」を助長する意義ある海外研修となった。

学生の声①－繊維学部　学生

今回の研修で、日本とは全く違う海外の風土にふれ様々なことを学ぶことができた。まず始めにバンコクをバスで移動した際に、日本以上の高層ビルの多さにとても驚いたと共に、実際に現地で働いている日本人の方がとてもいきいきとしていたのが印象的だった。今回の研修において、タイで働いておられる日本人に多くお会いすることができ、苦労も多いが充実しておられる様子を聞き、わたしも将来そんなグローバルに活躍できる人になりたいと強く思った。これからの大学生活では言語の学習はもちろん、どんな環境でも柔軟に対応できるように様々なことを学び、吸収する姿勢で日々過ごしていきたいと思う。

学生の声②－人文学部　学生

今回のタイ研修が私にとって初めての海外経験となった。外国のことは本やテレビ・インターネットで少しは知ることが出来るが百聞は一見にしかず、自分の目でみることが重要であると身をもって感じた。いや、自分の目でみると同時に現地のにおいや味、空気に全て触れることで初めてその国を体験することが出来るため、百聞は五感にしかず、である。 今回の研修の成果として、グローバル人材になるには、異文化を受容し自分の立ち位置を変えられるだけの柔軟性が必要であることが分かった。また、実際に現地に赴いて五感をもって異文化に触れることもまた大切である。実際にタイの現地文化にも触れることができ、4泊5日とは思えないほど内容の充実した有意義な研修であった。次回もこのような研修があれば積極的に受講したい。

THAI TOHKEN THERMO CO., LTD.

タイの王宮にて